

## 2014年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	都筑 学		
NAME	Manabu Tsuzuki		

## 1. 研究課題

(和文) 現代社会における青年の心理的発達と自立に関する研究

(英文) Study on youth's psychological development and independence in modern society

## 2. 研究期間

2年

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

本研究の目的は、わが国における青年がいかに心理的発達のプロセスを歩み、自立した人格として成長していくかについて、縦断的な質問紙調査のデータ分析結果にもとづいて明らかにすることであった。本研究の主要な課題は、現代の日本社会における「大人になること」の意味に関して、1 どのような大人へのなり方(自立の仕方)があるか、2 自律、アイデンティティの発達と大人になること(社会的な大人の基準をクリアすること)の関係がイコールかどうかという 2 点に焦点を絞って検討することであった。

本研究は、溝上慎一(京都大学)、杉村和美(広島大学)、中間玲子(兵庫教育大学)、畑野快(大阪府立大学)と都筑が、2013 2014年度から共同して進めてきた研究の一部を構成しているものである。

2014 2014年度は、高校3年生を対象に、約3,000人の質問紙調査を実施し、高校卒業後も継続して調査に協力してもらえる対象者を、独自に作成した Web 調査プラットフォームに自己登録してもらった。2015 2014年度は、大学1年生を対象に調査協力者をさらに募集し、高校卒業後1年目の協力者と合わせて、19歳コホート約1100名を対象とした質問紙調査を実施した。

これらの調査データにもとづいて、2016年11月に開催される日本青年心理学会において自主シンポジウム企画を申請して、研究成果を広く学会に知らせるとともに、フィードバックを得たいと考えている。

(英文)

This study aimed to clarify youth's psychological development and independence in modern society. For this purpose, we conducted several survey. In 2014 and 2015, 1100 youth of 19 years old participated in an original web survey. Based on the obtained data, we will submit symposium in academic conference on youth.

**3. 研究成果について**（研究期間終了後2年以内・予定のものを含めて記入）

日本青年心理学会における自主シンポジウム企画の申請